

## 第38回全国銀行大会総裁あいさつ

本日、第38回全国銀行大会にお招きをいただきましたこの機会に、一言ごあいさつを申し上げます。日本銀行の政策や業務の運営につきましては、常々緊密なご協力を賜っており、本席をお借りしまして深く感謝申し上げる次第であります。

### 内外経済情勢と金融政策

顧みますと、昨年6月、本大会が開かれましたのは、わが国経済がようやく調整局面を脱し、回復の歩みを明らかにし始めた時期でありました。その後1年余を経過しました現在、景気の足取りは一段と着実さを加えてきております。輸出が高い伸びを続け、これを軸に生産・出荷が水準を高めるとともに、企業収益が顕著な改善を示し、企業の景況感も好転をみております。こうした状況のもとで国内の民間需要も次第に回復傾向を鮮明にしてきており、とくに設備投資は中小企業を中心に増勢を幾分速めております。

現在進みつつあります景気の回復は、米国景気の急速な立直りや原油の値下りなど、海外情勢の好転に支えられた面が大きいことは申すまでもありませんが、それに先立ってわが国経済内部で厳しい調整が進められ、景気回復の基盤が培われていたことを見逃すことはできません。とくに物価と労働コストの落ち着きは、家計や企業の支出活動を支えるうえで大きな役割を果たしたのであります。

このように、わが国の景気はおおむね順調な回復を続けておりますが、この間において業種別、地域別にはなお跛行色が残存していることも否定できません。こうした跛行性につきましては、需要構造の変化や財政収支の悪化など、二度の石油危機に源を發したものが多く、中長期的な視野に立って解決を図っていくべきものと考えられます。幸い産業界には、需要や価格・コストの変化に適應するための動きが着実に拓がってきており、わが国経済の高い転換能力によって、今後の産業構造の調整が円滑に進むことを期待したいと存じます。

もっとも、第2次石油危機後におけるわが国産業界の適應につきましては、その過程で貿易収支の黒字幅が大幅に拡大するといった面もございました。企業が

合理化や新製品の開発に努めたことによりまして、わが国産業界の対外競争力は一段と強まり、輸入原燃料の節約も急速に進んだのであります。こうした黒字幅の増大に対しましては、内需の拡大や市場開放に努力することも必要であります。大幅な黒字が、なかば構造的な要因によってもたらされた面が大きい以上、不均衡是正の基本はやはり為替の円高によるべきものと思われま

す。翻って、わが国経済を取巻く海外経済の動向に目を転じますと、昨年来世界景気の回復を主導して参りました米国経済は、現在もなお個人消費の堅調や企業投資の盛り上がり等により力強い拡大を続けております。また欧州やアジアでも、多くの国が輸出の増加や設備投資の持直しを背景に着実な回復を示しております。この間、各国の物価はおおむね落ち着いた推移を示しており、世界経済は現在物価安定下の景気回復という極めて好ましい動きをみせているのであります。しかしながら一方では米国を中心とする大幅な財政赤字とそれに伴う高金利、さらには発展途上国の債務累積問題など、いくつかの困難な問題が残されております。これらの問題の解決に努めつつ、いかにしてインフレなき持続的成長を実現していくかが引続き世界経済の最も重要な課題であります。

こうした観点から、当面とくに注目を要しますのは、米国経済の動向であります。米国では財政の赤字が民間の貯蓄総額を上回る程の規模に達しておりますが、そうした状況のもとで景気が急速な拡大を続けておりますため、金利の上昇を懸念する声が強まり、また先行きインフレ再燃への警戒感も生じております。これまでのところ、為替がドル高に推移するなかで、輸入の増大が米国内の需要圧力を緩和し、また海外からの資本の流入も続いておりますが、このような状況がいつまで続くのかとの疑問も聞かれるところであります。米国通貨当局は、インフレ再燃を未然に防止しつつ息の長い景気回復を図るため、4月には公定歩合の引上げを実施するなどかねてから慎重な政策運営を行ってきております。米国経済の健全性が維持され、また債務累積国をはじめ各国に対する高金利の負担が軽減されるためには、こうした金融政策の運営に加え、巨額な財政赤字を削減する有効な手立てがとられることが肝要であります。今後米国当局によって適切な措置が可能な限り速やかに実施されることが強く期待されるのであります。

以上申し述べて参りましたような内外情勢のもと、日本銀行は金融緩和の基調を維持することに努めて参りました。マネーサプライは景気回復に伴う取引需要の増加などから、本年に入って幾分伸びを高めておりますし、貸出金利も先進国

の中では最も低い水準にまで低下しております。

今後の政策運営につきましては、引続き物価安定の基盤のもとで景気の着実な回復を図りつつ、対外不均衡の是正に努めていくことが肝要であり、こうした観点から当面これまで以上に為替相場の円高方向での安定が重要な課題と申せましょう。円相場は春先にかけてかなりの持直しをみせたあと、最近では、米国金利の先行き見通し難や中東情勢の緊迫化などから不安定な地合を続けております。このような状況下、私共は為替市場の動向を一層注視しつつ慎重に対処していかなければならないと考えている次第であります。

### 金融の自由化、国際化

ここで、金融の制度、仕組みの面に目を転じますと、金融取引全般にわたって自由化、国際化の動きが一段と進展をみております。この1年間を振り返ってみましても、いわゆる自由金利商品の拡大のほか、各業態の業務や取引に関する諸規制の緩和が進められて参りましたが、先に政府が発表されました金融自由化等に関する展望では、預金金利について大口預金から漸進的に自由化していくとの方針が示されました。また円の国際化に関しましてはユーロ円取引の一層の自由化が打出されたのであります。このような自由化や国際化が、海外からの要請に応えるかたちで促進されつつあることは否めませんが、わが国の金融・経済環境の変化や世界経済における地位の向上等を考えますと、自由化・国際化の方向自体は避けて通ることのできない課題であると申せましょう。

今後を展望いたしますと、預金金利の自由化につきましては、郵便貯金金利との関係を如何に調整するかといった問題がありますほか、自由化が進む過程では金融機関の経営にも少なからぬ影響が及ぶものと思われまます。またユーロ円取引の自由化につきましては、国内金融市場の自由化と平仄を保ちながら進める方針が示されておりますが、場合によっては国内の慣行や諸制度の見直しが必要となる可能性もないとは申せません。このように自由化・国際化を実際に進めるに当たりましては、なお乗り越えなければならない課題が少なくないのであります。しかしながら自由化が歴史的な課題であります以上、わが国の金融・資本市場はその基本方向に沿って、貯蓄者と資金利用者の双方にとって最も効率的で安定したものに発展していかなければなりません。このことは同時にわが国の市場が国際的な金融の仕組みと一層調和のとれた姿になることにも通じるものと申せましょう。こうした観点から、金融に携わる者すべてが時代の要請に十分応えつつ、自

らの持ち場を固めていく必要に迫られているのであります。

この点、日本銀行も例外ではありません。内外における金融の自由化と、これに伴う資金の流れの変化は当然金融政策の運営にも大きな影響を及ぼすものであります。自由な市場が拡大いたしますと、金融取引の全般にわたってこれまで以上に金利が重要な要素になりますため、マネーサプライの適切な管理のためにも金利機能の活用が一層重要になって参ります。その意味で、金融政策の効果が金融市場全般に速やかに及ぶような環境の整備が一段と重要になっております。日本銀行といたしましては、従来からのインターバンク市場を通じる金融調節について引続き種々工夫をこらす所存であります。昨今の急速な自由化の進展のもと多数の参加者による各種の市場が拡大をみている状況にあっては、必要に応じていつでもオペレーションが出来るような中核的なオープン市場を育成していくことが急務であると考えております。そのような市場で取引される金融資産としましては、その性格からみて政府短期証券がもっともふさわしいと思われまます。日本銀行は、これまでと同様、金融調節の必要に応じて保有する政府短期証券の売却を積極的に活用して参る所存であり、今後関係各位のご協力を得ながら、政府短期証券市場の本格的な育成を急ぐことが肝要と考えております。

以上のように、これからの金融界は日本銀行も含めて新しい時代を迎えるといっても過言ではないのであります。この先自由化を進めるに当り、是非とも健全で効率的な金融組織を築きあげるよう、ここにお集りの各位と相携えて努力して参りたいと念願しております。

### 銀行に対する要望

最後に本席をお借りしまして、銀行業界に対し1、2要望を申し上げたいと存じます。

改めて申すまでもなく、銀行経営を巡る環境は、これまでもあまり例のない大きな変化のさなかにあります。金融の自由化・国際化が進み、金融業務をめぐる技術革新にもまた目覚ましいものがあります。銀行業界におかれましては、こうした変化に適切に対処されることによって、新しい環境にふさわしい経営の基盤を確立され、国民の期待に十分応えていただきたいと存じます。

そのためにはまず、これまで以上に効率的な経営に徹せられ、自由化の時代を乗り切るに十分な収益体質を築かれますとともに、資金の運用・調達あるいは様々な金融サービスの提供に一層の創意を凝らしていただきたいと存じます。また

金融業務面では、いわゆるエレクトロニック・バンキングの進展に伴い、最近では支払決済や情報提供等多くの面で新たな変革が生じつつあります。銀行業界におかれましては、これまでに培われた蓄積と英知を結集され、顧客のニーズに応え得る効率的なシステム作りを取組まれるとともに、安全性の確保や取引ルールの整備といった面にも十分意を用いていただきたいと存じます。

自由化・国際化の流れは、銀行経営に対し、これまで以上に自己責任の原則を迫るものであります。また今後の融資環境を展望いたしますと、内においては産業構造の変化が進展しつつあり、外においては国ごと、地域ごとの経済発展が必ずしも均等に進まない可能性が強いのであります。このような状況のもとでは、銀行が元来備えておられる審査機能を十分発揮され、内外経済の健全な発展に寄与されると同時に、資産の内容を一段と改善していかれることが肝要であります。もとより銀行には安定的な信用機構の担い手としての使命もありますが、そうした使命を果しつつ経営リスクの多い時代を乗り切っていくには、やはり日頃から自己資本の充実に努められることが何よりも大切であると存じます。最近主要国におきまして、金融機関の自己資本充実の重要性が改めて強調されておりますのも、このような認識に基づくものであります。

以上、内外の経済情勢ならびに金融政策運営の諸問題などについて所感の一端を申し述べて参りました。変化の激しい内外情勢のもと、政策の選択にはこれまでも増して的確な判断が必要となりますが、私共は諸般の動きを注視しつつ、政策運営に誤りなきを期する所存であります。金融自由化を進めていく過程でかく乱的な資金の流れを生じさせないためにも、インフレ心理の台頭を許すようなことがあってはなりません。金融界が新たな時代を迎えるにあたり、私共としては通貨価値の安定という責務の重要性に改めて想いをいたし、新たな決意で使命の達成に全力を挙げる所存であります。本日ここにお集りの各位のご協力を切にお願いする次第であります。

終りに、銀行業界の一層のご発展を心からお祈りいたしまして、私のごあいさつとします。

(昭和59年7月9日)